

2 学期スタート — 積み上げた基礎の上に、挑戦を

長い夏休みが終わり、いよいよ 2 学期が始まります。1 学期を振り返ってみてください。新しいクラス、新しい仲間との関係づくり、授業のルール、生活のリズム—目には見えにくいけれど、みなさんは確かに「基礎」を積み上げてきました。基礎工事は地味で、目立たない作業です。毎日同じ時間に登校すること、当たり前前に挨拶をすること、係の仕事をこなすこと—一つひとつは小さくても、それが積み重なって、今のクラスの土台になっています。

基礎がしっかりしていなければ、その上にどんな立派な建物を建てても、いずれ崩れてしまいます。逆に言えば、今のみなさんには、もう土台があります。1 学期の自分を振り返って「大したことはできなかった」と思う人もいるかもしれません。でも、教室に来て、仲間と過ごし、日々を積み重ねてきたこと自体が、すでに立派な基礎工事だったのです。

だからこそ 2 学期は、その土台の上に「挑戦」という建物を建てる番です。そして今年の 2 学期には、その挑戦の舞台がすでに用意されています。体育大会では、クラスで心と体を合わせる挑戦があります。練習の時間は限られていますが、勝ち負けだけでなく、種目に向けて声をかけ合い、時には意見がぶつかりながらも一つのチームになっていく過程そのものが挑戦です。そして今年から、文化祭は「学習発表会」という新しい形になります。これまでの先輩たちが作り上げてきた形がないぶん、戸惑うこともあるかもしれません。でも前例がないからこそ、自分たちで考え、工夫し、ゼロから作り上げていく余地がたくさんあります。「初めてだから」を言い訳にせず、「初めてだからこそ」自分たちの手で新しい伝統の一步目を作ってみてください。何年後かに「あの代が学習発表会の原型を作った」と語られるかもしれません。挑戦には失敗がつきものです。準備がうまくいかない日も、本番で思うような結果が出ないこともあるでしょう。でも失敗は、基礎がしっかりしている今のみなさんなら、ちゃんと支えられます。倒れそうになったら、土台がまた支えてくれます。だから安心して、思い切って挑戦してください。挑戦した経験は、結果がどうであれ、次の基礎の一部になっていきます。1 学期、よく頑張りました。その頑張りを土台に、体育大会でも学習発表会でも—2 学期は立派な建物を、みなさん自身の手で建てていきましょう。

困ったこと、一人で抱えていませんか

長い夏休みが終わりました。楽しい思い出がたくさんできた人もいれば、なんとなくモヤモヤしたまま 2 学期を迎えた人もいるかもしれません。家庭の中でのこと、友人関係のこと、生活リズムがうまく整わなかったこと、勉強のこと—夏休みという長い時間の中では、学校がある時期には出てこないような悩みや困りごとが顔を出すこともあります。「これくらいで相談していいのかな」「誰かに話すほどのことじゃないかも」—そう思って、一人で抱え込んでしまっただけではないですか。小さな困りごとでも、時間が経つほど大きく感じられてしまうことがあります。逆に、早い段階で誰かに話すことができれば、すぐに解決の糸口が見つかることも少なくありません。担任でも、他の先生でも、スクールカウンセラーでも構いません。誰でも、いつでも構いません。話すことで気持ちが軽くなることもありますし、一緒に考えることで解決の道筋が見えてくることもあります。

2 学期がスタートしたこのタイミングだからこそ、一度立ち止まって、心の中に引っかかっていることがないか、振り返ってみてください。そして、もし何かあれば、遠慮せずに声をかけてください。みなさんの「困った」を聞く準備は、いつでもできています。